



慶應義塾大学ビジネス・スクール

大幸薬品株式会社の市場創造戦略

5

大幸薬品株式会社（以降、大幸薬品）は、1946年11月18日に設立され、大阪府大阪市西区に本社をおき、2010年4月に東証1部に上場している。役員は、代表取締役会長に柴田 仁、代表取締役社長に柴田 高氏、社外取締役（常勤監査等委員）に中澤 一雄ら、取締役（監査等委員）に松澤 元雄、執行役員に長田 賢俊、関 真一、山下 充洋ら他4名で構成されている（敬省略）。

10

その事業内容は、大きく2つの事業部門から構成されている。1つは、医薬品事業であり、一般用医薬品の『正露丸』『セイロガン糖衣 A』『正露丸クイック C』の製造販売や、一般用医薬品の『ピシヤット下痢止め OD 錠』、指定医薬部外品『ラッパ整腸薬 BF』の販売が行われている。もう1つは、感染管理事業であり、衛生管理製品の『クレベリン』『クレベリン発生機』『クレベリン LED』等の製造販売、そして日常除菌製品の『クレベ & アンド』の販売が行われている。

15

2019年3月期連結決算報告によれば、売上高が約104.2億円、営業利益が約20.3億円、そして純利益が約14.2億円となっている。2017年3月期の売上高が約82.9億円、営業利益が約15.5億円、そして純利益が約10.5億円、2018年3月期の売上高が約94.6億円、営業利益が約18.6億円、そして純利益が約10.9億円と、大躍進を遂げている。この原動力となっているのが、感染管理事業のクレベリンである。

20

2つの No.1

2015年、医薬品事業の『正露丸』は27%の市場シェアを、『セイロガン糖衣 A』は22.1%の市場シェアを有しており、日本国内の止瀉薬市場において約50%の市場シェアを占有し、以降もNo.1の地位を達成している（2015年インテージ社資料）。感染管理事業の『クレベリン』は、過去5年間、日本

25

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学大学院経営管理研究科井上哲浩教授、MBA 修了生柴田 穰（M40）によって、公開資料、大幸薬品株式会社社内資料ならびに関係者へのインタビューに基づき、クラス討議の基礎資料として作成された。また本ケースの作成にあたって、大幸薬品株式会社代表取締役社長柴田高様そして執行役員CMO・CSO長田賢俊様から多大な協力を得た。感謝の意を表したい。またDean's Officeの芝田藍子（M30）さんと手塚勇生さんからも協力をいただいた。感謝の意を表したい。となお、ケースの欠点はすべて著者らに帰する。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は<http://www.bookpark.ne.jp/kbs/>から。

30

Copyright © 井上哲浩、柴田 穰（2020年5月作成）